

大胆な金融引き締めに踏み切った トルコ中央銀行

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

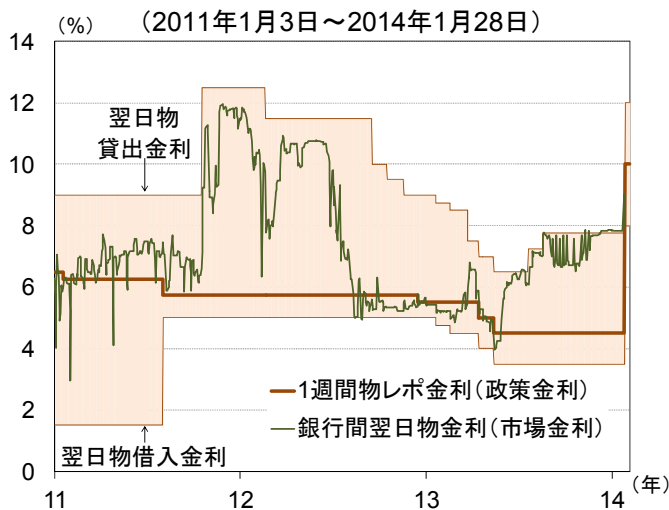
トルコ中央銀行は28日、通貨リラの下落やそれが同国の物価および経済の安定に及ぼす悪影響を抑制するために、主要金利の引き上げ(下表参照)を緊急の金融政策委員会で決定しました。

	従来	→	今後
翌日物貸出金利	7.75%	→	12.00%
翌日物借入金利	3.50%	→	8.00%
1週間物レポ金利	4.50%	→	10.00%

市場では、同委員会の緊急開催が発表された27日以降、翌日物貸出金利を10%程度に引き上げるとの見方が有力となり、リラが反発しました。ただし、実際には、利上げ幅が予想を大きく上回っただけでなく、主要金利が全て引き上げられるなど、中央銀行の決断はかなり大胆なものとなりました。そうした決断が、“リラを支える強い意志”を示すものと市場で受け止められたことから、発表後にリラはさらに大きく上昇しました。また、影響はリラ相場だけにとどまらず、投資家のリスク選好度の回復を通じて、新興国通貨や株式など、リスク資産の上昇にも及んでいます。

今回のトルコ中央銀行の決断は、市場で必要不可欠とみられていた、正しい方向への一歩と考えられます。同中央銀行は、インフレ見通しが大きく改善するまで、引き締め政策を維持するとしており、消費者物価指数の上昇率が2015年半ばには目標とする5%水準に落ち着くと予想しています。ただし、今年3月に地方選挙、8月には国民投票による初の大統領選挙が控えているほか、構造改革などにより、経常赤字体質を改善する必要もあることなどから、今後の政治の動きにも注意が必要です。

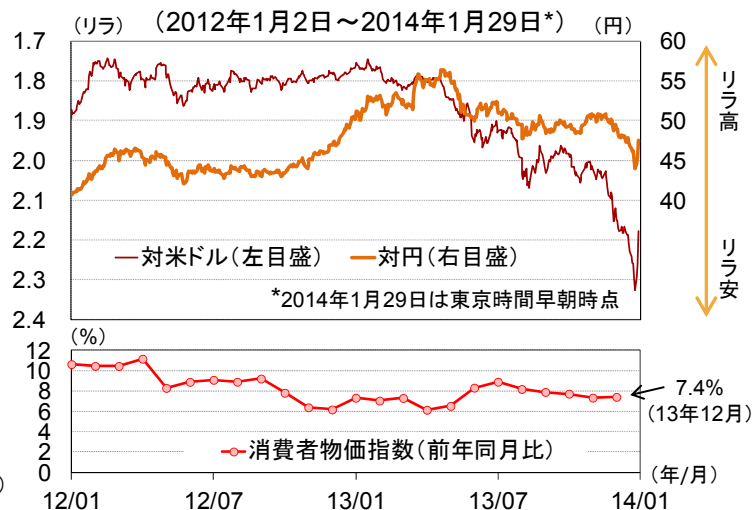
主要金利の推移



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

通貨リラおよび物価の推移



注:物価は月次データ、2013年12月分まで

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。